

『2センチの鉛筆に込めた妹の思い』

私の妹は、鉛筆を2センチほどの長さになるまで使い続けている。鉛筆の芯は端から端まで入っているから、途中で捨てるのはもったいないと考えたらしい。カッターで削るのが難しくなる長さまで、鉛筆補助軸を利用して使っている。

友達に「そろそろ捨てたら？」と言われても、使うのをやめない。少しでもゴミを減らしたいという気持ちも大切にしたいという。

ある日、妹とテレビを見ていて、リサイクルできないゴミを埋める最終処分場には限界があると知った。環境省の発表によると、昨年3月末時点の全国平均で残り25年ほどしかゴミを埋められないという。最終処分が難しくなれば環境汚染が進み、人々の健康に害が出てしまうかもしれない。

だからこそ、身の周りの小さなことからゴミを減らす努力が必要になる。これからは私も、もったいないと思う気持ちを大切に暮らしていきたい。

3年生 M・Y （2025. 11. 3 産経新聞）